



支援制度

長期履修制度

博士前期課程 / 博士後期課程

職業を有している等の事情により、2年（後期課程は3年）では履修が困難な場合、2年（同3年）分の授業料で3年または4年（同4年、5年または6年）かけて履修することができます。

ティーチング・アシスタント

博士前期課程

学部の講義や演習等において、教育補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

フィールドワーク研修旅費助成

博士前期課程

授業の一環として、実地調査、情報収集等の研究活動を行う場合において、その研修に要する旅費を助成します。

教育訓練給付制度

博士前期課程

一定の条件（雇用保険上）を満たし修了した院生に対し、授業料等の2割（上限10万円）に相当する額をハローワークから支給する教育訓練給付制度の講座に指定されています。

リサーチ・アシスタント

博士後期課程

教員が行う研究プロジェクト等において、研究補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

学会参加旅費助成

博士後期課程

研究領域の最新情報の把握と自らの研究成果発表を行う場合において、その学会参加に要する旅費を助成します。

入学試験概要

[募集人員]

研究科	課程	専攻	入学定員	学内推薦	一般	社会人	外国人留学生
経済・経営学研究科	博士前期	地域・国際経済政策専攻	12名	6名程度		6名程度	若干名
		経営学専攻	12名	4名程度		8名程度	若干名
	博士後期	経済研究専攻	4名	—		4名	

[試験科目]

研究科	課程	募集区分	外国語	専門科目	口述試験	小論文
経済・経営学研究科	博士前期	学内推薦			○	○※3
		一般	○※1	○	○	
		社会人			○	○※3
		外国人留学生			○	○※3
	博士後期		○※2		○	

※1…英語・中国語から1科目を選択 ※2…英語 ※3…事前提出

試験日程

[第1次募集]

出願期間	令和6年7月24日(水)～7月31日(水)
試験日	令和6年9月1日(日)
合格発表	令和6年9月9日(月)

[第2次募集]

出願期間	令和6年12月18日(水)～令和7年1月6日(月)
試験日	令和7年2月2日(日)
合格発表	令和7年2月10日(月)

入試に関する
お問合せ

教育・学生支援部
教育推進課

〒910-1195
福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1
TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6012
E-mail: kyouiku@fpu.ac.jp
URL <https://www.fpu.ac.jp/>

大学院入試に関する詳細はウェブサイトをご確認ください。

〔永平寺キャンパス〕

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1
TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6011

〈バス〉
京福バス福井駅西口バスターミナル大学病院線
「県立大学」下車（所要時間約40分）
〈乗用車〉
福井駅より約20分
北陸自動車道 福井北ICより約10分



Graduate School of Economics

経済・経営学研究科

Graduate School of Economics and Business Administration

経済・経営学研究科

Graduate School of Economics and Business Administration



地域・国際経済政策専攻

Major in Regional and International Economic Policy

博士前期課程 2年

経済学に基づき、地域公共政策、国際経済の研究を行います。修士論文を書いて、修士（経済学）の学位を取得できます。

経営学専攻（ビジネススクール）

Major in Business Administration

博士前期課程 2年

経営学・会計学に基づき、企業経営・管理の研究を行います。修士論文、またはプロジェクト研究に取り組み、修士（経営学）の学位を取得できます。

経済研究専攻

Major in Economic Research

博士後期課程 3年

理論と政策を一体化させた高度な学術研究を行います。博士論文を書いて、博士（経済学）の学位を取得できます。



経済・経営学研究科長／博士（経済学）

すぎやま やすゆき
杉山 泰之

本研究科では、学部からの進学者だけではなく、海外からの留学生、現役の社会人、退職後にあらためて深い学びを希望する方など、多様な院生が互いに刺激し合いながら研究に励んでいます。大学院での研究には、教員からの知識を受け取るだけでなく、主体的に自らの研究課題を設定し、先行研究を調べ、新たな知見を得ようとする姿勢が求められます。学術論文として研究の成果を発表するまでの道のりは決して楽なものではありませんが、本研究科には皆さんの研究活動をしっかりとサポートすることのできる教員が揃っています。また、教員との距離が近いという本研究科ならではの特長もあります。ぜひ、本研究科で自らの研究課題をじっくりと掘り下げて考察することの面白さを味わってください。

多様な仲間が集い、
刺激し合う環境

経済・経営学研究科の特長

1 地域の企業・自治体で働く社会人のためのカリキュラム
地域の需要にあわせた実践的な科目を充実

2 社会人が学びやすい時間割
夜間・土日開講科目多数

3 ワークショップ科目
企業経営者や官公庁政策責任者等をゲストスピーカーに招いてのケーススタディ

4 きめ細やかな指導
ゼミナールによる少人数教育

5 学問の理論的基礎を重視
経済学、経営学の理論に関する科目も充実



こんな期待に応えます

- 研究者を目指したい。
- 税理士などの専門職を目指したい。
- 政策形成能力を身に付けた自治体職員になりたい。
- キャリア・アップを図りたい。
- 何が正しい経済政策かを判断できるようになりたい。
- 経済と社会について深い知識を身に付けた教員になりたい。
- 現場の問題発見・問題解決能力を高めたい。
- キャリアをふまえた研究をしてみたい。
- 技術者としての経営能力を向上させたい。
- 定年退職を機にじっくりと体系的に学び直したい。

カリキュラム

[博士前期課程]

地域・国際経済政策専攻

区分	科目
経済学基礎	経済理論 経済政策特論Ⅰ 経済政策特論Ⅱ 財政学特論 統計・計量Ⅰ 日本経済史特論
	地域経済特論 海洋ビジネス論 環境政策 食料・農業政策 公共管理論 公益事業特論 証券市場特論 ワークショップ（地方行政論） ワークショップ（地域開発）
	国際経済特論 中国経済特論 ロシア経済特論
	経済・経営学特別講義Ⅰ 経済・経営学特別講義Ⅱ
	専攻演習Ⅰ 食料・農業政策演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 地域資源論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 公共管理論演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 経済政策特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 財政学特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 計量経済学演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 経済理論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 日本経済史特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 地域資源論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 地域マネジメント特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 食料・農業政策演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 公共管理論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 国際経済特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 中国経済特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ ロシア経済特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 専攻演習Ⅱの科目を継続履修

[博士前期課程]

経営学専攻

区分	科目
マネジメント	現代経営学 経営財務戦略論 経営情報特論 生産管理・生産革新論 実践コンサルティング論 企業経営のためのケース分析 現代企業論 経営品質論 マーケティング戦略論 人的資源管理特論 ワークショップ（ベンチャー企業・起業（創業）論）
	企業会計・法務 会計学特論 管理会計特論 企業の財務報告・監査 ビジネス法務 企業経営と法 税法 会計制度論 財務報告の理論と実証
	国際経営 国際ビジネス論 国際比較経営論
	特別講義 経済・経営学特別講義Ⅰ 経済・経営学特別講義Ⅱ
	専攻演習Ⅰ 経営情報特論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 生産管理・生産革新論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ マーケティング戦略論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 人的資源管理特論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 地域資源論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 会計学特論演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 経営情報論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 生産管理・生産革新論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ マーケティング戦略論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 人的資源管理特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 地域資源論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 地域マネジメント特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 会計学特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 管理会計特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 企業経営と法演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 税法演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 専攻演習Ⅱの科目を継続履修

前期課程の両専攻とも看護福祉学研究所 社会福祉学専攻の下記授業科目を履修可能です。

社会福祉	社会政策特論	社会保障特論	社会福祉管理・経営特論	社会調査特論	社会福祉環境特論
------	--------	--------	-------------	--------	----------

[博士後期課程]

経済研究専攻

研究分野	科目
応用経済学研究	応用（マクロ・ミクロ）経済学特別演習
地域経営研究	財政学・地方財政論特別演習 財政・文化経済学特別演習 食料・農業政策論特別演習 地域経済論特別演習
経営管理研究	現代経営学特別演習 経営情報・安全管理論特別演習 生産管理・生産革新論特別演習
国際経済研究	国際経済特別演習 ロシア経済論特別演習

※2024年度カリキュラム。科目は変更となる場合があります。
※年によって開講されない科目があります。

指導教員

地域・国際経済政策専攻	研究科長 教授 杉山 泰之 国際経済特論 国際貿易や企業の海外進出と環境問題の関連性についての研究	教授 桑原 美香 財政学特論 公共施設の維持補修、管理運営に関する実証的研究	教授 清水 葉子 証券市場特論 証券市場の制度と国際比較、金融機能の効率性や公正性についての研究	特命教授 新宮 晋 経済政策特論Ⅱ 経済政策の政治哲学的評価に関する考察	
	教授 杉山 友城 地域マネジメント特論演習Ⅱ（両専攻で受講可） 地域の産業や企業の生成・発展・永続に関する研究	教授 廣瀬 弘毅 経済理論 経済理論の持つ規範的側面と方法的基礎付けについての研究	教授 Andrey Belov ロシア経済特論 ロシア財政・地域経済に関する研究	教授 堀田 学 食料・農業政策、地域産業論 農産物の生産・流通と地域活性化についての研究	教授 山崎 茂雄 公共管理論 文化芸術を生かした観光や地域再生、学術コンテンツ開発の研究
	教授 渡邊 敏生 経済政策特論演習Ⅱ 資金調達と投資決定に関する理論及び実証研究	准教授 池本 裕行 日本経済史特論 近世日本における地主制や死亡構造に関する実証的研究	准教授 加藤 健太郎 中国経済特論 中国の経済成長及び日中経済関係に関する研究	准教授 松岡 孝恭 計量経済学演習Ⅱ 物価変動に関する実証研究	
経営学専攻	教授 石丸 香苗 地域資源論演習Ⅱ（両専攻で受講可） 森林を中心とした自然資源と人の暮らしの関係についての研究	特命教授 内川 毅彦 税法 消費税を巡る諸問題に関する研究	教授 北島 啓嗣 マーケティング戦略論 SCなど外部経営資源を利用する企業の競争優位の研究	教授 木野 龍太郎 生産管理・生産革新論 企業間分業を通じたモノづくりの技術蓄積・発展に関する研究	
	教授 徳前 元信 会計学特論 企業や組織の透明性を高めるための利益情報作成に関する研究	教授 飛田 正之 人的資源管理特論 企業における人材育成、キャリア形成に関する研究	教授 福山 龍 企業経営と法 中小企業の経営と法に関する研究	教授 藤野 秀則 経営情報論、情報管理論 産業システムの安全管理や安全文化に関する研究	准教授 木下 和久 管理会計特論演習Ⅱ 新製品の企画・設計・開発段階における原価企画に関する研究



短期ビジネス講座を開催しています

地元にあるビジネススクールのエッセンスを体験しませんか。時間がとれない方には「短期ビジネス講座」がおすすめです。土曜日全4回程度の集中開催です。

現代の社会は変化が激しく、知識や考え方をアップデートしていくことが求められています。この講座では、本学教員をはじめとして各界の第一人者がケース・スタディやディスカッションを交えながら、マネジメントの現場と理論を融合させた講義を行います。異業種・異世代の履修者と一緒に学び直しや「社会人脈」のきっかけづくりをしてみませんか。



在学生インタビュー



カメハメハ大農場の農家カフェ 代表
地域・国際経済政策専攻 ぶじい かずよ
(食糧・農業政策演習) 藤井 和代 さん

私は15年前に脱サラ後、キッチンカー事業を創業し有意義な時期を過ごしました。そして2020年度から本学に創造農学科が新設されると同時に、同学科の特任講師を務めることになりました。そのため学生と共に地域課題解決に取り組むべく、この機会に自身のレベルアップを図りたいと思い、身近な本学で学びなおすこととしました。正直なところ最初は授業が十分に理解できず苦痛になることもありましたが、しかし多彩な経済学の文献や書籍を読破するうちに徐々に新たな好奇心が湧きました。在学期間中はコロナ禍にありましたが、学部生と共に学ぶ機会や、先輩や先生方が親身に論文完成に付き添ってくださったことに感謝しています。研究テーマは「キッチンカーの社会的意義」を取り上げ、歴史を紐解くとともに、新たな知見を求めてフィールド調査し、「災害時の活用について」提言を加えました。今後も引き続き実践と探求を続けてまいります。

修了生インタビュー

Interview

インタビューの内容・所属は取材時(2023年度)のものです。



経営学専攻 修了 よしだ まさひこ
(税法演習) 吉田 雅彦 さん

既に会計学を専攻し県外大学修士課程を修了しておりました。しかし、当時就職しておりました税理士事務所において税務実務に直面するにあたり、税法や財政学などを体系的に学ぶ必要性を感じ進学いたしました。税をはじめとする事業者を取り巻く事業環境についてリサーチ・クエスチョンを持ち、「ストック・オプションの権利行使益の所得区分について」という題目で修士論文の作成に取り組みました。多くの先行研究の読み込み、実証分析、議論の進め方の検討など、どれも労力を要するものばかりでした。そのような状況に関わらず、2年で修了することができたのは、社会人学生にも配慮された時間割、カリキュラムが導入されていることが大きく寄与していると思います。また、演習(ゼミ)で指導教員や参加者に研究を報告し、指導を受け、議論を積み重ねた経験は、私にとって大きな財産になっています。

税理士を目指すにあたり試験勉強では得られない知識や様々な分野の知識を身に付けたいと思い、福井県立大学への入学を決めました。修士論文では税法に関する研究をしており、指導教員、同じ目標を持つ院生と学習し議論をして学びを深めています。講義は税法、会社法、経済・経営学の分野だけではなく、社会福祉学専攻の科目を履修できることも大きな魅力です。院生は働きながら通われている方が多く、夜間や土曜日に講義があり、講義形態や講義時間を考慮してくれるため働きながら学びやすい環境が整っています。また様々な世代や業種の方との交流を通じ、多様な視点で学ぶことができ互いに成長ができる場でもあります。大学院で同じ目的や目標を持つ方々と出会えたことはとても貴重な経験であり、これからも共に学んでいきたいです。福井県立大学には優秀な先生方が在籍しており、ここでの学びをこれからの人生に活かしていきたいです。学習環境が整っている福井県立大学と一緒に学びませんか。



経営学専攻 ささき みゆう
(税法演習) 佐々木 美有 さん

会社員生活28年目にして、それまでとは全く畑違いの部署への異動があったことや、それを機に、外部環境の変化が激しい現代に必要な社員への対応は何かと考え始めたことが大学院進学を検討するきっかけとなりました。在学中に主に取り組んだことは、社員定着率向上に向けた離職の要因調査と取組みの実証研究です。自社をケーススタディとして現場をフィールドとするアクションリサーチを行いました。また、研究の成果を一般化し、社会課題の考察を深めることもできました。福井県立大学に入学を決めたのは、特に学びたかった人的資源管理の研究が行われていたからです。長期履修制度がある点も魅力的でした。仕事と学業の両立は想像以上で大変で、修了を諦めかけたこともありましたが、先生や仲間がいたおかげで続けることができました。入学には勇気が必要かと思いますが、私のように現場をフィールドとして研究できることも社会人研究者の大きなメリットです。是非一歩踏み出してみてください。



自動車部品会社 管理部部长 こばやし こうじ
経営学専攻 修了 (人的資源管理特論演習) 小林 浩二 さん

2週間の時間割モデル

曜日	1限 (9:00~10:30)	2限 (10:40~12:10)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)	6限 (18:00~19:30)	7限 (19:40~21:00)
日							
月				ワークショップ(地域開発)		ワークショップ(地方行政論)	
火						財務報告の理論と実証	
水	統計・計量Ⅰ					日本経済史特論	
木						経済理論	
金							
土	税法		国際ビジネス論				
日							
月			現代経営学				
火						証券市場特論	
水							
木						会計学特論	
金						経営情報特論	
土			専攻演習				

※年によって開講されない科目があります。
※講義は前期・後期で変わります。通常時間割とは別に集中講義等もあります。
※経済・経営学研究科の所属する専攻以外の専門科目も履修可能です。

Q&A

経済・経営学研究科に寄せられる、よくある質問をご紹介します。

- Q 長期履修制度とはどのような制度ですか？**
A 博士前期課程では、2年分の授業料で3年または4年かけて履修ができ、博士後期課程では、3年分の授業料で4年、5年または6年かけて履修ができます。主に働いている方や家事・育児・介護等に就いている方が対象となります。
- Q 社会人なので平日は仕事です。両立はできますか？**
A 本研究科では、平日は夜間【6限・7限(18:00~21:10)】、土日は1~4限(9:00~16:10)を中心に開講しており、社会人学生でも働きながら学位を取得できます。時間割体系は時間割モデルをご参照ください。
- Q 税理士試験を受験予定です。税理士試験の税法科目の免除制度に該当しますか？**
A 本学の経営学研究科・博士前期課程において修士の学位を取得することで、税理士試験の税法2科目免除を受けることが可能になります。ただし、その学位取得における研究論文が、税法に属する科目に関するものとして国税審議会の認定を受ける必要があります。